# 手話入門 全10人が修了

## 久御山町 来月、基礎課程スタート

久御山町主催の手話教室（入門課程）の修了式が4日、同町ゆうホールであり、受講生が証書を受け取った。修了者を対象に10月から基礎課程がスタートする。

入門は5月に開講。町内外の当事者団体や関係団体の担当者からアドバイスを受け、講義や実技、会話練習などで手話習得の土台を固めてきた。町内在住・在勤者10人が受講し、全員が計15回の講座を修了した。

最終日は手話の伝言ゲームで盛り上がり、AKB48の「365日の紙飛行機」やauのCMソング「みんながみんな英雄」の手話歌に挑戦した。森山住民福祉課長から一人ひとり修了証書を受け取った。

川辻久美子さん（46）は、子供のころにテレビで手話を見て心ひかれた思い出や、教室での4カ月を振り返った。「みんなと一緒の授業が楽しかった。手話の勉強を続け、いつかスムーズに会話ができるようになりたい」と手話でよどみなく発表。「もし道で困っている人を見かけたら、サポートできれば」と今後の目標を語った。

基礎課程は手話奉仕員養成講座基礎課程に対応。10月9日から来年2月26日まで計19回、ゆうホールで毎週水曜日午後7～9時に開催する。定員10人、町内在住・在勤で入門課程の修了者が対象。問い合わせは住民福祉課☎075-631-9902へ。

基礎課程の修了証書を掲げ、講師らと記念写真に納まる受講生

## 手話施策推進 町が会議設置

久御山町は、手話を言語として普及と理解を図る手話言語条例「あたたかい手の言葉でつながる久御山町手話言語条例」に基づき、町手話施策推進会議を設置した。

手話施策に関する有識者、ろう者や聴覚障害者、手話サークルや福祉関係団体の代表者など委員9人で構成。手話の推進に関することを話し合ったり、手話施策の推進状況を検証したりする。会長に好川賢一氏を選任、会長指名で副会長に石原勝利氏が就いた。

同会議の委員は次の皆さん。◎は会長、○は副会長。カッコ内は推薦団体。

◎好川賢一（京都聴覚言語障害者福祉協会）、清水章（府山城北保健所）、服部浩子（町ろうあ協会）、岡松美和（いちごサークル）、樫葉千秋（さくらサークル）、澤﨑誠造（HAPPYサークル）、武元和子（町身体障害者協会）、○石原勝利（町社会福祉協議会）、谷口修一（町商工会）

講座で教わった手話を使ってヒットソングの手話歌の発表も

城陽で初「耳のことフェスタ」

# 聞こえテーマに共生進める

## 府聴覚言語障害センター

音声文字化アプリについて解説する相談員と参加者たち

難聴者や中途失聴者らパネリストによる討論と補聴器など福祉機器の体験コーナーから成る第1回京都府耳のことフェスタが7日、府聴覚言語障害センター（加藤貴雄所長）＝城陽市寺田林ノ口＝で開かれた。

昨年3月施行の府「言語としての手話の普及を進めるとともに、聞こえに障害のある人とない人とが支え合う社会づくり条例」に基づくもので、府が主催、聞こえとコミュニケーションのサポートセンター事業南部ブロックサポート委員会が運営した。

2015年4月開設の同センターには、府内の北・中・南部から難聴者や中途失聴者をはじめ、その家族、要約筆記サークルの会員、要約筆記を勉強中などの約100人が参集。京都市内や舞鶴、与謝野、綾部などからも関係者が姿を見せた。

午前・午後の部で展開したパネルディスカッションでは、青年から高齢者までの当事者5人が、聞こえの程度やコミュニケーション方法をはじめ、社会参加などをテーマに議論を交わした。「せっかくできた条例。当事者が声を上げることで実効性を高めたい」などの意見が出た。

また、補聴器や補聴機器をはじめ、日常生活に欠かせない福祉用具、聴覚障害者用情報受信装置「アイ・ドラゴン4」などの体験コーナーを設け、メーカースタッフや相談員が丁寧に手ほどき。音声認識技術を用いた「話し言葉が文字になる」UDトークなどの音声文字化アプリを試した参加者たちが相談員と手話を交えて歓談。相談員は「身障者手帳を持たれた方はIT教室をここで受講できる。公共施設にタブレットなど機器を設置してもらうのも重要で、機運を高めたい」と話す。

# "怒り"後悔しないよう

## 井手町教委 アンガーマネジメントで子育て楽に

怒りをコントロールして子育てを楽にしようというアンガーマネジメント講座が6日、いづみ人権交流センター＝井手段ノ下＝で開かれた。町教育委員会主催。「いずみふれあい学級」と「家庭教育学級」の第2回講座を兼ねたもので、子どもの人権を考えることがテーマ。住民ら34人が参加し、ワークを織り交ぜながら自分のイライラ・怒りを振り返ったり、怒りの感情をコントロールするポイントを学んだりした。

講師は、（一社）日本アンガーマネジメント協会・アンガーマネジメントファシリテーターで、京都府こころの健康推進員・コミュニケーションアドバイザーでもある森口由美さん。森口さんはまず、必要な怒りもあるとし、アンガーマネジメントのテーマは「怒りで後悔しないこと」だと解説。その上で、カッとなる時間は6秒、「この時に怖い顔をしたり激高したりするのは、育ちの中で身に付いたクセ。クセは変えられる」と伝えた。そして、深呼吸や、数を数える、手のひらを見るなど、具体的な方法を伝授した。

最後は「後悔や失敗はある。少しずつ変えていこう。変えることに気持ちを向けるのが大切」と呼び掛けた。

**【写真＝アンガーマネジメントファシリテーターの森口由美さん】**